

令和6年度 社会福祉法人陽和福祉会事業計画

法人本部

* 基本目標について

本年度は開設からどんぐりの森が11年目、どんぐりの家が7年目を迎えます。基本理念の「住み慣れた地域で安心して生活が送れるよう、友愛と福祉の精神をもって、多様な福祉サービスを提供し、地域福祉の推進に努めます」の実践に努め、地域の高齢者福祉の向上に一層努めていく。また、新型コロナウイルス、インフルエンザの予防対策を行いつつ、地域の皆様、入居者・利用者・ご家族の皆様との交流を行っていく。

* 人材の確保と資質向上について

入居者・利用者の皆さんに安定して質の高いサービスを提供できるよう、ハローワーク、ホームページなどを通じて事業所の雰囲気を変えながら求人募集を行うなど採用活動に力を入れる。また、職員の処遇改善や働きやすい環境作りに力を入れ、職員が長く安心して働ける職場にする。施設内での集合研修を増やし、外部研修についてもオンライン・対面ともに積極的な参加を推奨、職員の資質向上を図りながら個人の資格取得も支援していく。また、処遇改善加算等を活用しながら適正な人事考課により評価に応じた昇給など、職員のモチベーションを高めていく。

* 安定した運営について

第一に稼働率の向上を重点課題として取り組み、安定した収入の確保に努める。次に物価上昇に伴う食材料費、水道光熱費等の高騰に備え日頃から無駄な経費削減に努める。どんぐりの森、どんぐりの家共に計画的に設備・備品の更新も行っていく。今後も度々発生が予想される災害や感染症に対応するため業務継続計画を定期的に見直し、非常時にも安定した法人運営ができるよう努めていく。

* 運営推進会議の開催について

特養、グループホーム、小規模多機能のそれぞれの会議を2か月に1回のペースで開催。デイサービスでは年に1回開催する。スライドを使つての紹介のほか実際に現場を見て頂きながら施設の取り組み等、事業所の運営、日々の生活ができるだけわかりやすく皆さんに伝えるように努める。

* オレンジプラスカフェ（認知症カフェ）などの開催について

喫茶の開催は月に2回ペースで行っていますが、このところ地域の皆さんの参加がないため、今後は地域の方も参加して交流を図っていけるようにする。毎回職員が工夫を凝らしてお菓子を作り皆さんに提供している。また、隣接の障害者支援施設はるひ荘の入所者による日曜のコーヒーショップの運営にも引き続き協力していく。

* 情報発信について

季刊誌「どんぐり広場」の内容を充実するとともに、ホームページ・インスタグラムによる情報発信に努めていく。また、昨年より始めたLINEを活用し、法人の情報や施設内の雰囲気を積極的に発信するように努める。各ユニット単位のささやかな行事や入居者・利用者の皆さんの様子も発信していく。

* 地域との関わりについて

今年度から行う春まつりでは夏祭りの規模で行う予定です。ご家族、地域の皆様との交流する場を作りたいと考えています。また、事業継続計画を見直すとともに、防災訓練など地域の行事にも参加するようにして地域の皆さんとの交流を再開していく。

地域密着型特別養護老人ホーム（入居定員29名）

＊ 事業の内容について

施設サービス計画に基づき、明るく家庭的な環境のもと、食事、入浴、排せつ等の日常生活の援助及び日常生活の中での心身の機能訓練を行うことにより、安心と尊厳のある生活を、入居者がその有する能力に応じ可能な限り自立して営むことができるよう支援していく。開設から11年を経過し、ほとんどの入居者が要介護度4または5となった。春日井リハビリテーション病院との連携により皆さんが安心して生活していただけるよう努めていく。

＊ 稼働率について

居室は常に満床の状態になるよう努力していく。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあって、入居までに時間がかかるケースが多かった。部屋が空いたら入居までがスムーズにいくよう病院等、関係機関との連携を強化していく。また、特別養護老人ホームの入居指針にあるように入居の必要度の高い方を優先的に入居させていく。

＊ 行事

新型コロナウイルスの感染対策の制限緩和に伴い、今年度から、春まつり、花火大会、秋祭り、年末には餅つきと全体行事を実施するとともに、各ユニットにおいてはユニット単位で「ユニット調理」「誕生会」等の行事を随時実施し入居者の皆様に有意義な時間を過ごしていただく。

＊ ボランティアの参加

ボランティア活動の受け入れを積極的に行っていく。施設に来ていただける団体の開拓にも取り組んでいきたい。

＊ 研修

年に2回の「事故防止」「感染対策」、年に1回の「身体拘束」の研修を必須とした年間研修計画を作成し、計画的で質の高い研修を実施する。新入職員向けの研修など職員の習熟度に合わせた個人別の研修や外部研修にも積極的に参加させ職員の資質の向上に努める。

看護職を中心に医療に関する研修の充実を図り、医療処置を必要とする入居者に対し安全かつ適切に対応できるよう努める。

職員個々の資格取得も積極的に応援していく。

＊ ユニットケアの実践

24時間シートの質を高め、ユニット型の小規模特養の特性を活かし入居者の皆様が自宅で過ごしているような雰囲気での暮らしの継続を図っていく。植物園へのお出かけや中庭の散策など、天気の良い日には散歩を楽しんでいただくようにする。

＊ ご家族への対応について

今年度は以前のように居室での面会もできるようにし入居者・家族・施設の3者の交流を図っていく。

認知症高齢者グループホーム（入居定員18名）

＊ 事業の内容について

認知症によって自立した生活が困難になった入居者に対して施設サービス計画に基づき、明るく家庭的な環境のもとで、食事、入浴、排泄等の日常生活の援助及び心身の機能訓練を行うことにより、安心と尊厳のある生活を入居者の有する能力に応じ可能な限り自立して営むことができるよう支援していく。

＊ 稼働率について

待機者もありほぼ満床で推移している。小規模多機能型居宅介護事業所などと連携し、満床の状態の継続に努めていく。歩行が不安定な方など要介護度が進んだ方には計画的に特養へ移るなど、適時適切に本人の状態にあった環境に移っていただくようにしていく。また、関係医療機関等との連携の強化を図り、入居者が長くグループホームで過ごしていただけるように努める。

＊ 行事

今年度から、春まつり、花火大会、秋祭り、年末には餅つきと全体行事を実施するとともに、各ユニットにおいてはユニット単位で「ユニット調理」「誕生会」等の行事を随時実施し入居者の皆様に有意義な時間を過ごしていただく。

屋内外のレクリエーション、地域での行事への参加、飲食店への外出等入居者の趣味嗜好に合わせた活動を行っていく。

＊ ボランティアの参加

例年は月に3～4回、いろんな団体の方が定期的に来ていただいていた。グループホームの特性に合ったボランティアの皆さんに来ていただき、入居者の生活の質の向上が図れるよう協力をお願いしていく。

また、ユニットにおいて一人ひとりの嗜好に合わせたボランティア（絵葉書・傾聴等）も充実させていく。

介護サービス相談員の派遣も引き続きお願いしていきたい。

＊ 研修

年間研修計画を作成し事故防止、感染予防等の知識を高める。職員の習熟度に合わせた個人別の研修や外部研修にも積極的に参加を促し、職員の資格取得へ向けた取り組みも応援する。

また、認知症高齢者に対するケア・接遇に関する研修に積極的に参加、施設内でも伝達講習を行い全職員が認知症高齢者に充実したケアが行えるよう努めていく。各所で行われるようになったオンライン研修も活用し従来よりも数多く参加の機会をつくっていく。

＊ グループホームの特性を活かしたケアについて

炊事・洗濯・お掃除・布団干し等、日常の活動を入居者の皆さんとともにを行い機能の維持向上に努める。歩いて買物ができる場所がないので、感染拡大の状況を見ながら入居者の皆さんと共に車を利用し買い物等に行くようにする。敷地の広さを活かし、入居者の皆さんに天気の良い日には園芸活動へ参加していただいたり、中庭を散歩するようにする。

＊ ご家族への対応について

今年度は感染対策の制限緩和を受け入居者の居室での面会を行い、入居者・家族・施設間の交流をしっかりと図っていく。

小規模多機能型居宅介護事業所（登録定員 25 名、通所定員 15 名、宿泊定員 6 名）

＊ 事業の内容について

利用者がその自宅において、可能な限り自立した生活を過ごすことができるよう、居宅サービス計画に基づき通い、訪問、宿泊の各サービス形態で必要な日常生活上の援助を行うことにより、利用者の孤独感の解消及び心身機能の維持並びに利用者の家族の身体及び精神的負担の軽減を図るものとする。地域の高齢者の皆さんが可能な限り自宅での暮らしが継続できるよう、本人だけでなく介護者も併せて支援する。また、ケアマネジメントに力を入れ、地域の社会資源の把握に努め、利用者の幅広いニーズに応えるようにする。各事業所独自のサービスを行っている小規模多機能型居宅介護事業所の中でも、「どんぐりの森」ならではの特色ある事業運営に努めていく。

＊ 稼働率について

登録定員 25 名に限りなく近づけるよう努力していく。宿泊もできる事業所だが宿泊サービス中心に偏ることなく、ひとり暮らし高齢者等の在宅での生活を支援していくため、訪問、通いの利用者を募り、サービス体制を整え積極的に利用者の拡大を図っていく。

＊ 行事

今年度から、春まつり、花火大会、秋祭り、年末には餅つきと全体行事を実施するとともに、利用者の皆様に有意義な時間を過ごしていただく。

小規模多機能型居宅介護事業所特有の柔軟な対応を利用し、近隣の公園への外出、屋外でのバーベキューなどを行い、楽しく充実した日常生活を送っていただくようにする。

＊ ボランティアの参加

新型コロナウイルス感染対策の制限緩和を受けて、以前のように月に 3～4 回、団体、個人を問わずボランティアの方に定期的に来ていただけるようにする。ユニットにおいて一人ひとりの嗜好に合わせたボランティア（絵葉書・傾聴等）も充実させていく。

介護相談員の受入れも引き続き行っていく。

＊ 研修

年間研修計画を作成し事故防止、感染予防等の知識を高める。新入職員研修など職員の習熟度に合わせた個人別の研修や外部研修にも積極的に参加する。

利用者の送迎等により職員が車の運転を行うことが多いため、運転講習や交通安全講習を定期的に行い安全運転の徹底を図り職員の交通事故防止にも努める。

訪問サービスの強化を推進するため接遇マナーの研修を定期的に行い、職員全員が利用者宅において気持ち良い対応が出来るように努める。

資格の取得へ向けて職員の取り組みも積極的に支援していく。

＊ ご家族への対応について

介護支援専門員による毎月 1 回の自宅訪問を通して、ご家族の意向をしっかりと聞き取るようにする。行事の際にはご家族も来ていただいて利用者・ご家族・事業所との交流を図っていく。

サービス付き高齢者向け住宅（入居定員 33 名）

＊ 事業の内容について

独り暮らしの高齢者などが快適で心身ともに充実、安心した生活ができるよう支援していく。また、要支援・要介護者の方には訪問介護、訪問看護、通所介護事業所等と連携し介護サービスの活用を促し安心した生活が送れるようにする。

＊ 稼働率について

開設から 6 年が経ち隣接施設への移動が必要な入居者も出てきている。スムーズな移動をすすめると共に他事業所と連携を図り、安定した入居率の維持に努めていく。

＊ 行事

去年は人手不足もあり最低限の行事しかできなかった。今年は定期的な行事をおこない、活気ある施設にしていく。

＊ 地域交流ホールの活用

新型コロナウイルス感染症の流行前は音楽の演奏会、練習、体操等で近隣の方に利用頂いていた。以前のように地域の方との交流の場になるよう再開の告知をしていく。

＊ 研修

オンライン研修・対面研修を織り交ぜ、必要な研修を計画的に実施していく。職員の認知症に対する知識・対応方法の向上に努め、実務に生かしていく。

＊ サービスの向上

建物の補修、電化製品の修理は早急に行っていく。

＊ 環境整備

敷地内の雑木林を有効活用し、散策路整備、植樹、花壇整備を進めていく。またイノシシの侵入防止策を検討していく。

通所介護事業所（通所定員 15 名）

＊ 事業の内容について

利用者の有する能力に応じ、可能な限り居宅において自立した日常生活を営むことができるよう、生活機能の維持・向上を目的とし、日常生活上の支援や機能訓練を提供する。

＊ 稼働率について

稼働率 90%の維持に努めていく。

＊ 行事

夏祭りや運動会、クリスマスコンサートなど季節行事を中心に行う。コロナ禍で取り止めていた機能訓練を目的とした外出レクリエーションも少しずつ再開する。

＊ 研修

オンライン研修、対面研修を織り交ぜながら、個々のレベルアップを図る、併せて事業所内の勉強会の機会も増やしていく。

＊ 職員の確保、質の向上

職員への OJT や外部研修への積極的な参加で個々のスキルアップを図るとともに、業務・役割の見直しと効率化をすすめサービス向上に努めていく。

訪問介護事業所

＊ 事業の内容について

在宅で安心した生活を過ごしていただくため、訪問により洗濯・掃除・布団干し等の生活援助とトイレ・入浴介助等の身体介護を継続するとともに、定期的にモニタリングやカンファレンスを行い、どのような支援・援助が必要かサービス計画を作成し、利用者に適切なサービス提供に努める。また、日々連絡帳にて報告や連絡を密に行うなど職員間の情報共有を図る。

＊ 稼働率について

サービス付き高齢者向け住宅の入居者はもとより、他施設や地域への訪問も検討していく。

＊ 研修

年間計画を作成し必要な研修を実施していく。またサービスの質の向上のため、職員の介護福祉士資格取得を推奨していく。

＊ 職員の確保

常勤5名・非常勤1～2名の体制を維持し、利用者数の維持・訪問件数の増加に柔軟に対応できる体制を構築する。

訪問看護事業所

＊ 事業内容

事業所スローガン『住み慣れた地域で安心してその人らしい在宅療養生活に寄り添った看護を提供します』を掲げ在宅生活を支援していく。

＊ 稼働率について

8年目を迎え利用者の入れ替わりが進み、開設当初から利用されていた利用者の終了が続いた（2月末現在の利用者数29名）。市内の訪問看護ステーションの数が増え競争は激しくなっているが、今後も職員のスキルアップ、他事業所との連携を図りながら丁寧なサービスを提供し地道に利用者の拡大に努める。

＊ 職員の確保について

現在、常勤3名、非常勤2名。

去年は職員の退職があったが非常勤職員1名が常勤職員になり体制が安定した。

新たに2名の非常勤職員の採用が出来た。

1人ひとり職員の習熟度を高め、更なる新規利用者増に対応できる体制を構築していく。

＊ 研修

オンライン研修への参加回数は増えた。今年度はさらに各職員が興味のある研修に参加できるようにしていく。